

<多様な担い手の確保に取り組む事例>

○「有機ゆず」の集落による将来の担い手づくり

1. 集落協定の概要

市町村・協定名	徳島県美馬市木屋平 <small>みましこやだいら</small> 森遠 <small>もりとお</small>			
協定面積 12.5 ha	田 (4%)	畑 (96%)	草地	採草放牧地
	水稲	ゆず		
交付金額 149 万円	個人配分			50 %
	共同取組活動 (50%)	水路・農道等の維持・管理		30%
		たい肥 (鶏糞) 購入費		17%
		会議費		3%
協定参加者	農業者 26人、非農業者 10人			開始：平成12年度

2. 取組に至る経緯

美馬市木屋平地区は剣山の麓に位置した山村である。標高が高く、農地は急傾斜地であり、美馬市の市街地からの交通・道路状況も良くないことから、ほ場整備などの農業基盤整備が満足に行き届いていない。そのため、当地区のほとんどが樹園地地帯となっており、従前からゆずの生産に力を入れている。

そうした中、当集落は第2期対策ではゆずの有機JAS認証取得を進めるなど、高付加価値農業を実践し、平成21年度には4.3haで有機ゆずを生産した。

3. 取組の内容

第3期対策では、第2期対策に引き続き鶏糞たい肥や地域のススキを元に集落が作った肥料の施肥など地力増進の取組を実施するとともに、更に発展的取組として「有機ゆず」の果汁などの加工・販売に取り組むこととしている。現在、当集落には保健所の認可を得て、市場に流通させることができる果汁を製造する農家が2世帯ある。今後、その輪を広げていく方針である。

更に、将来の担い手作りのため、美馬市立木屋平小学校と協定を結び、同校児童に主産品の有機ゆずの収穫や、田植え、稲刈り、餅つきなどを体験する場を提供している。集落としては、児童との交流や技術指導を通じて、将来の担い手作りを目指している。また、学校は児童にいろいろな経験を積ませることにより、農業・環境についての理解を深める教育の場となっている。こうした体験農園は集落と学校、そして児童、地域全体にとって、非常に貴重な農地の利用法の一つであろう。



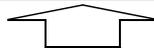
【森遠集落】



【有機柚子の収穫体験】

【集落の将来像】

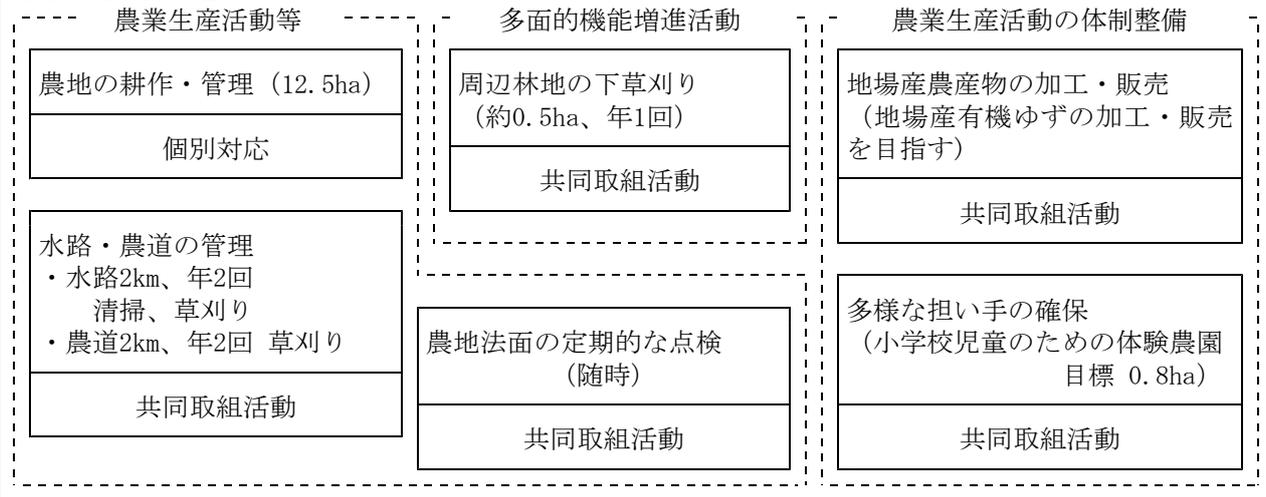
- 有機ゆずを核とした農業所得の向上，後継者作りによる持続可能な農業生産活動体制整備



【将来像を実現するための活動目標】

- 有機ゆず及び果汁の加工・販売
- 地元小学校との連携した体験学習を実施し，将来の多様な担い手作りを実施

【活動内容】



4. 今後の課題等

有機JAS認証を受けている「安全・安心」なゆずを生産しているが、現状はその努力に見合うほど、市場での取引価格が高くない。そのため十分な農業所得を得ているとは言い難い。そのため、今後はJA系統だけではなく、独自の販路開拓や販売方法を見いだす必要がある。当集落の後継者が見込めないのが現状であるが、農業所得が十分にあるならば地域に根付く若者も表れるはずである。そのためにも、「有機ゆず」の有利販売を実現しなければならない。

また、他の中山間地域と同様、木屋平地区全体が過疎化・高齢化が進んでおり、当集落でも、個々の農地の耕作・維持管理までしかできず、集落ぐるみで農地を守る体制にはないため、即戦力の後継者をいかに確保するかが大きな課題となっている。

【第2期対策の主な成果】

- 有機ゆずの栽培による高付加価値農業の実践 (H17:2.9ha、H21実績:4.3ha)
- 自然生態系の保全に関する学校教育等との連携
 - ・地元小学校児童のための体験農園として活用した面積 (H21:0.8ha)